

# No. 1003

## 「福祉元年」の門出

車イスの新郎、松葉ツエの新婦という身障者同士のカップル三組の合同結婚式が4月2日、東京麹町の弘済会館結婚式場で行なわれました。

ことしは「福祉元年」。しかも4月は身障者の福祉強調月間、合同結婚式はこうした中で行なわれました。山口敏夫厚生政務次官が仲人をつとめ、友愛十字会総裁三笠宮殿下ら関係者多数が列席して晴れの門出を祝いました。身障者という共通の悩み、問題をもちながら、見事に克服して結ばれた三組のカップル、川名良男さん(40)と鳥井靖子さん(25)は、「友愛十字会世田谷更生館」で仕事仲間だったことから知り合い、お互いに助けあって行くようになりました。

休日など、近くの公園に出かけて障害の身の人生を語りつづけ、やがて結婚を決意するようになったのも、きわめて自然のなりゆきでした。

＊結婚はあきらめていた、という兩人だけに最高に幸せそう。きっとすばらしい家庭を築きあげてゆかれることでしょう。

## 武蔵野線 開通

4月1日、＊第二の山手線、といわれる武蔵野線が開通した。午前5時、この日府中本町駅には、一番電車にのろうと鉄道マニアが詰めかけた。くす玉が割れ、一番電車が発車。

府中本町駅から首都圏の郊外に半円を描いて新松戸駅まで57.5kmをおよそ一時間で走る武蔵野線。

バンク寸前にきた首都圏の貨物輸送に対処するため計画され、付随的に旅客電車が走るもの。そのためか、電車が走るのは武蔵野の田畑ばかり。合理化のあともうかがえる。自動改札機もそのひとつだ。はじめての装置にとまどうお客も続出。そのうちに子供の遊び場になってしまった。ダイヤも、朝のラッシュ時でさえ、15分おき一本。日中は40分に一本というからまさにローカル線並み。

浦和市田島団地のすぐ目の前にできた西浦和駅。朝の利用客、さぞかし多いだろうと思えば、ダイヤが悪いためか多くはない。西浦和で京浜東北線にのりかえ東京に通動。＊これで30分は今までよりは短縮されるはず。と国鉄はいうのだが。

同じく団地の側にできた新小平駅。次の西国分寺駅で中央線にのりかえ新宿東京方面に行けるはずだが、朝の通勤時刻になってもお客はほんのわずか。貨物優先は、私鉄との連絡が全くない点にもみられる。

東上線と交差する北朝霞駅は畑の真中にできた。私鉄側が折れて今ここに東上線の接続駅を建設中。

首都圏を通る貨物列車は、これからほとんど、この武蔵野線を通る。お客がホームで待ちくたびれる前を、貨物列車が堂々と走る武蔵野線。東京が更にふくれあがり、衛星都市圏が拡がるにつれ、武蔵野線も、貨物優先から旅客優先の日がやがて来るだろう。